



緑化建設協会だより

発行所 一般社団法人 石川県造園緑化建設協会 総務企画部会 発行責任者 松原 大介

〒920-0376 金沢市福増町北 840 番 2 TEL 076-269-1110 FAX 076-269-1279

(一社)石川県造園緑化建設協会は2022年7月に創立40周年を迎えました



創立40周年記念講演会

令和4年10月21日に協会創立40周年記念期講演会「人と自然の空間的共存〜景観十年、風景百年、風土千年〜」を石川県立音楽堂コンサートホールで開催しました。講師は東京都市大学特別教授の涌井史郎氏が務め、約130名が講演を聴講しました。

冒頭、岸会長は、「造園業界の皆様喜んでいただけるよう、協会設立40周年という節目に相応しい講演会として、涌井先生に講師をお願いしました。」と挨拶されました。

続いて涌井氏の講演が始まり、地球全体や人類、日本の都市、地方、

さらに人々の心に迫る危機について指摘し、今後どのように対応すべきか、人間と自然の持続的共生に向けての改善案を提唱されました。

この中で涌井氏は人類中心のエゴから自然との共生を目指すエコへの発想の転換を提起。プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）への最も有効な回避戦略としてグリーンインフラ（自然資本財）を基礎とする時代、あるいはCO₂吸収源である森林整備をはじめ、都市緑化を含めた健康で健全な農林生産空間を維持する時代を目指すべきと訴えられました。

また、日本人は日本庭園や里山などに代表されるように自然と上手に共生してきた長い歴史があることから、これらに誇りを持って世界に向かってアピールしていく一方、国内では中央集権型ではなく、それぞれの地方がその特徴を磨きながら地方同士がDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用したネットワークで結ばれる自立・分散型の「地域循環共生圏」を提唱されました。

さらに、米国巨大IT企業の「GAF A」の本社が緑に覆われている事例を紹介しながら「人間はデジタルに触れるほどリアルを求め、それがないと創造力が生まれにくい」と指摘され、オフィスのみならず都市全体のグリーン化の推奨を説かれました。

また、海岸の防潮堤の仕切りが長距離の場合、基礎の深さが深過ぎると、陸地と完全に切り離された状態となり自然の循環が阻害され、様々な弊害を招く恐れがあるため、計画段階で予め様々な影響を考慮した設計をするべきと言われました。

講演内容の範囲は非常に広大にして多岐にわたり、歴史も絡めた深みのあるもので、我々造園業界としても斬新で刺激的な内容でした。今回の講演会では、大きなビジョンや将来の方向性を指示して頂く一方で、普段の業務にはない視点も多く含まれており、多くのことに気付かされる講演会でありました。今後、グリーンインフラを始めとする緑をベースとする街づくり、空間の構成に貢献できるよう、我々の責任の重さを感じつつ、提案力・実施力の向上に努め、より良い未来をつくる一翼を担いたいという思いを新たにしました。

名古屋都市公園視察と 劇団四季観賞

(株)宮野勇吉商店 加藤 健一



去る平成4年11月16日から一泊二日の日程で名古屋へ研修旅行に行ってきました。コロナ禍ということでの二年間は自粛していましたが、三年ぶりの開催です。今回の参加者は23名でした。

名古屋に到着して最初の見学先はトヨタ博物館です。館内で昼食をとってから見学をしました。私はトヨタ車ばかりがずらりと並んでいるものと思っていました。世界のクラシックカーから現代の他社メーカーの車まで、19世紀末の自動車誕生から現代までの自動車の進展の歴史をたどる展示となっております。



た。私もですが自動車好きの方々はもう少し時間が欲しかったようです。

続いては名古屋市内に移動して実施施工例視察です。株式会社中嶋造園土木の中嶋社長様と岩間造園株式会社の後藤専務様のご厚意により、名城公園内の施設で最初に工事内容や募集要項などの説明を座学で受け、その後、名城公園の「tonarino」を視察しながら現場で説明を受けました。このPFI事業のパークリノベーションは募集要件の条件も厳しく、建設会社や他業種との連携も大変だったと聞きました。この事業の建設事務所の後利用には、民間のカフェやベーカーリー、スポーツ店などが入店しています。ショッピングだけではとどまらず料理教室やワークショップも行われているそうです。今では市民の憩いの場の賑わいの一役を担っています。

ほんの少し移動して、久屋大通公園の視察です。こちらは100m道路の中央部で、テレビ塔を中心にリノベーションされました。テレビ塔も今では「MIRI TOWER」と名称を変更したそうです。公園のどこからでもこのタワーを見ることが出来るという事も条件だったそう

で、鬱蒼とした森のような施工前の写真とは全く別の公園になっています。今回の講習の中で一番心に残ったのは、「造園会社が主導権をとる」という言葉でした。なかなか難しいことだと思えます。

昨今、新規の公園が設置されることも少なく、協会としても既存の公園のリノベーション提案を今までも行っておりましたが、これまで以上に積極的に提案していかねければと思いました。

初日の研修を終えて、夜は名古屋コーチンのお鍋のお店での懇親会が行われました。衝立もなく割と密な宴会でしたが、こういう形態の食事でも本心に久しぶりだなと口にしながら皆さん懇親を深めておりました。

二日目の研修は熱田神宮からでした。朝の清々しい日差しの中で参拝し、参道を歩きながらも珍しい樹木や、変わった形の大型灯籠に皆さん注目しておりました。

続いては徳川美術館へ。武器や刀剣、茶室や書院飾り、そして能舞台などの展示がされており、国宝や重要文化財も含まれています。それぞれが30年ほど前の江戸時代のものであると思うと考え深いものがありま

した。今回は特別企画展として鷹狩の資料、屏風や巻物なども沢山展示されておりました。午後からは今回のもう一つのメインであります劇団四季の「キャッツ」の鑑賞でした。庭園の観賞や美術品の観賞もとても良い研修ですが、庭づくりや公園の設計もある意味芸術的なセンスやアート感覚も必要ということでの鑑賞が企画されました。まず劇場内に入るともうすでにステージ上からキャッツ感でいっぱいです。開演前からワクワクする気持ちが高まりました。そして開演すると演者さんのコスチューム、歌、踊り、もうどれも素晴らしいもので感動的でした。こういう体験で少しでも感性の刺激になれば良いと思いますし、また劇団四季の別の演目も機会があれば観賞したくなりました。すべての研修を終え帰路につきました。今回は三年ぶりの研修旅行でしたが、皆さんと共に色々な体験や勉強ができて懇親も深めることができて大変有意義な研修旅行でした。

そしてこの場を借りて、半日の間、ご案内していただいた岩間造園株式会社の後藤専務様と株式会社中嶋造園土木の中嶋社長様に感謝申し上げます。



金沢駅通り線のアドプト事業について

(株)城北園 根布 信太郎

平成22年度に石川県が創設した「いしかわ我がまちアドプト制度地域連携沿道環境創出事業」は、地域の道路美化活動団体、活動を支援するサポーター、そして行政が連携して良好な沿道環境を創出することを目的としたものです。

平成27年3月の北陸新幹線金沢開業に伴うまちなか歩行環境向上のため、金沢駅通り線の金沢駅から武蔵が辻間の一部において、プランターの設置と飾花を当協会が実施することとなったことから、金沢支部が「いしかわ我がまちアドプト制度」の活動団体の一員として金沢駅通り線の武蔵が辻周辺をプランターの花の植え替え、管理、沿道の清掃等を実施しております。

平成28年度からは活動区間が武蔵西交差点から武蔵交差点間の150mとなり、武蔵が辻まちづくり協議会及び沿道の店舗、マンション管理組合がこの区間で飾花の植物の管理作業を行っていますが、プランターについても、既存の木製プランターが耐用年数2年程度であり、既に老朽化

による破損や規格が小さいため、保水能力が低く、夏季の水遣り頻度が高くなるため、飾花を管理するにあたり、大きな負担を強いられるお更新の申し出を行い、プランターをポリエチレン樹脂製品に変更することに同意していただきました。

アドプト活動としては年3回、6月にポーチラカ、11月に葉ボタン、3月にパンジーなどの植え替えや清掃活動を実施しております。

今後とも、沿道の美化活動に貢献していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



『第63回 石川県防災総合訓練に参加して』

加賀支部 榎井野上正樹園 井野上盛光

今回の訓練は、大雨と地震が立て続けに発生する複合災害のケースを想定して行われました。大雨による土砂災害警戒警報が発令され、一部地域では避難指示が発令されたところ、石川県加賀地方を震源とする大規模地震が重なって発生するというものです。この訓練を実施するにあたり、打ち合わせ会議に5回参加し、当協会に与えられた訓練内容は倒木等緊急撤去訓練です。災害発生現場の主要道路において、地震の発生により樹木が倒れ、道路や避難通路を完全に塞ぎ、緊急車両、救援物資の輸送等の通行に支障をきたすという想定です。実施要領は、速やかに現場に向かい倒木を処理し、緊急車両と被災者が通行する経路を確保するというものです。最終会議では『造園協会さんが訓練現場に最初に向い、倒木処理をしなければ、訓練車両が通行できないため、訓練が始まりません。テキパキと作業完了をお願いします。』と簡単に言われ、『マジ！』と、かなりの不安が頭をよぎりました。

令和4年9月25日(日曜日)訓練は地震発生を知らせるアラーム放送から始まりました。放送が始まり、自衛隊、石川県警所有のマウンテンバイク2台が訓練場所の視察に出発、あー始まったと不安が頭をよぎる中、参加した各協会員は事前に用意したヘルメット、手袋、チャップス、保護メガネを着用し、4人ユニットとワゴン車に別れて待機、現場視察を終えたマウンテンバイクが帰って来て、被害情報の収集が終わると同時に、当協会に倒木処理が伝達され、各訓練車の先頭を切って被害現場に出発、倒木処理現場に到着し、岸協会長を先頭に道路を塞いでいる倒木を確認した。目通周約1.5m長さ4mの大木が2本倒木しており、倒木には枝葉が多数あり、素早く全員で、作業に着手した。4人ユニット車の適正位置を確認後、岸協会長の指示のもと作業を開始した。近くには、次に訓練現場に入るパトカー2台・救急車1台等が倒木処理されるまで待機していた。協会員の間で『あわてるな』『慎重に』等、声が飛



び交う中、作業は順調に進み、道路を開放した。次々と訓練現場に車両が入って行く中、訓練に参加した協会員が全員集合し、各自の怪我の有無等最終点呼を終え、無事作業を終了した。『無事終わった』と安堵の表情が皆さんに戻り、胸を撫でおろした事を記憶しています。そうこうしているうちに、馳県知事が現場視察に到着し、当協会が訓練現場で何の作業をどのように行ったかをパネルを用いて、岸協会長、北理事、南加賀土木事務所長から詳しく説明され、訓練が終了しました。12時からの閉会式終了後、北理事に美味しいカレーライスをご馳走になりました。北理事ありがとうございました。最後に実効性の高い防災訓練を



行する事が出来ましたのも、岸協会長、北理事、(株)御木万葉造苑、(株)光造園、猿田事務局長さん 皆様方のご協力の賜物です。当日はありがとうございました。(合掌)

姉妹都市(アメリカ・バッファロー市) 日本庭園修復事業

(株)荒屋園芸 荒屋 義武

バッファロー市日本庭園修復事業は、当初、令和元年11月に当協会金沢支部副支部長の浦誠氏と現状調査を行い、令和2年秋に修復作業の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス流行に伴う渡航制限・規制により延期となっていました。

3年を隔てて、ようやく令和4年9月末に金沢支部幹事の浦誠氏、松



本誠氏と3人で渡米し、4日間の修復作業を怪我やコロナ感染もなく完工出来た事を嬉しく思います。

前回、調査をもとに修復方針を決定し、必要な材料・機材等を選択し、日本から送る資材、アメリカで調達する資材を決めるなど準備を進めてきました。が、いつ作業に行けるか判らずに年月が経ちました。

令和4年度に入り修復作業の実施が現実味を帯びてきた中、リモート会議を繰り返して準備を進め、9月末に渡米が決定した時には、喜びもありましたが同時に計画通りに施工できるのか、日本よりもコロナ行動規制が緩いアメリカに渡航して無事帰って来れるのかなど心配も頭をよぎりました。

今回の修復作業の内容は、崩れた護岸を擬木により補強し、枯死した樹木を植替え、新しい樹木を補植するというものでした。

当初の計画より施工日数、人員が少なくなつて、予定していた作業の半分程しか出来ないのではないかと懸念していましたが、公園管理者の



BOPCや日本庭園友の会の方々による予想以上の協力により9割程度まで修復作業ができ、残りの作業をBOPCにお願いして記念式典までに日本庭園の形とすることができ安堵しました。

この日本庭園の修復にあたり、バッファロー市・BOPC、金沢市国際交流課、日本庭園友の会の皆様には多大なご協力を頂き、そして送り出して頂いた当協会員の皆様には貴重な体験をさせてもらい、感謝の言葉しかありません、ありがとうございました。



緑と花の推進員養成講座について
(株)御木万葉造苑 田畑 智日

秋も深まる令和4年10月23日。当日は日曜日、ということもありランニングやウォーキング、休日を満喫する家族連れなどにぎやかな木場潟公園(中央園地周辺)において当講座を開催いたしました。

事前に協会猿田さんと県公園緑地課榎本様と講習内容と実技講習で剪定してもよい樹木など打ち合わせを行っていましたので、当日の講習はスムーズに進めることが出来ました。講師は丸山憲雄(旬)丸山造園会長にお願し快く引き受けていただき、栗山氏と私で剪定実技のサポートをさせていただきました。



当日の天気が午後より崩れるとの予報であったため、本来室内講義を午前にして午後屋外実技講習としていた予定を逆転させ、午前の部に実技実習を行うことといたしました。

剪定の実技と雪吊りを2時間程度でするにあたり、剪定では受講者には実際に脚立などに昇つての作業は控えていただき、樹種ごとにどういった枝を処理するか、どの程度切つてもよいかなど、質問に答えながら講義を進めるという方法で、また雪吊りでは、男結びなど特殊な結び方がある程度割愛し、雪吊りの見栄えをよくするための芯の決め方

や、縄の張る位置や強さなどを一通り説明しながら、実際に縄を括るなど触っていただきました。20名という受講者のため質問が尽きることはなく、大変熱心に実技講義を受けて下さいました。

天気予報通り風が強くなりぐずつてきた午後、室内での講義では協会の用意した教材に基づいて午前の復習も兼ねて丸山氏からの講義を受け、そののち剪定や雪吊り限らず樹木や庭に関して、日ごろから一般の方が疑問に思っているようなことを質問していただき、それらにお答えするといった講義とさせていただきますました。

参加者の皆さんの熱心な聞き入れや質問に、我々ももつと勉強して質

問に対しての答え方や新しい知識を養っていかねければと、私自身新たな刺激をいただいた1日となりました。



新入会員挨拶

植正 蔦 正晴

この度、入会させて頂きました、植正の蔦 正晴と申します。

平成11年に金沢にて開業し、今年で24年目を迎えます。

京都に修行に向向き、26歳で地元に戻り、右も左もわからないままに独立し、少しずつではありますが、お付き合いのできる人を与えて頂き、20余年を過ごさせて頂きました。

当協会のことは存じておりましたが、自分には時期尚早と感じておりましたところ、先輩方より背中とハンコを押して頂き、この度入会の運びとなりました。

入会を機に、新しいつながりや新しい視点が生まれ、造園家として、また人間としての幅を広げ成長していくことができれば有難いと思っております。

私自身、歳は50歳を超えましたが、知識も経験もまだ浅く、甚だ未熟な者ではございますが、当協会にお役に立てることがあれば幸いに存じます。

皆様方のご指導ご鞭撻を頂戴して、益々精進させて頂ければと存じますので、お力添えの程を何卒宜しくお願い申し上げます。

(株)庭遊KURO 黒田 泰隆

この度、石川県造園緑化建設協会様に入会させていただきました株式会社 庭遊 KURO の黒田泰隆と申します。

当協会様には会長の岸様をはじめ役員の方々や金沢支部の方々などの承諾をいただきまして入会させていただきました事をお礼申し上げます。

会員の皆様と協力して協会の事業をおこなっていきたく思います。がなにごん未熟者でありますのでご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんがその時はご指導していただけると幸いです。

簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。